読むくすり箱

第157号
平成17年９月
富山県病院薬剤師会
ＤＩ委員会

お肌の若返り その2

シミ・シワ・ニキビに、ケミカルピーリングと
ピーリング剤のお話

ケミカルピーリングではどんな薬剤を使うの？

「その１」では、ケミカルピーリングの概要を説明しました。今回は、治療目的や皮膚の状態、取り除く角質の深さ等によって使い分けられる、ピーリング剤について述べます。施設によって、取り扱っている薬剤や得意とする疾患があり、エステティックサロンなどで用いられる物もあります。下記には、主に良く用いられるものを示しました。

●グリコール酸、乳酸

皮膚にわざと弱い炎症を起こし、その部位が修復される時に「その１」で述べたような「効果」が得られます。様々な濃度のものが用いられ、高濃度・低pHの薬剤ほど浸透性は高いですが、強い炎症、水ぶくれ、色素沈着などの副作用も起こしやすくなります。一般的に２～４週間に１回のペースで施術されるケースが多いようです。グリコール酸は化粧品成分として販売することが認められているため、多くの市販品があります。低濃度のものはエステティックサロンでも用いられることがあります。

●トリクロロ酢酸、フェノール

特定の皮膚疾患の治療に使用されます。角質の溶解・剥離作用がとても強い反面、皮膚に炎症を起こす作用も非常に強いため、ピーリングに精通した医師の元での使用が原則となります。

↓裏面へつづく

●サリチル酸エタノール、ジェスナーズ液

ニキビに対する治療効果がグリコール酸と比べて若干良い傾向にあるとする報告があります。塗布開始時に刺激感が出る場合がありますが、サリチル酸自身に鎮痛作用があるため、施術完了後の不快感はグリコール酸よりも少ないようです。施術部位に薄いかさぶたが出来ることが多いようですが、その場合はすぐに医師に相談し、自分でかさぶたを剥がさない事が肝心です。

●サリチル酸マクロゴール（30%）

割と最近使用されるようになった薬剤です。グリコール酸のように炎症を起こす事無く皮膚の角層を剥離させる事ができるため、より安全に効果を得ることができます。また、サリチル酸エタノールのように血液中にまで成分が吸収されてしまう危険性もほとんど無く、塗布時の刺激感もほとんど無いため安全性が高いと言えます。効果の持続時間が長いため、多くの場合４週間に１回のペースで実施されます。ただし、効果と安全性が高い反面、薬剤の調整が非常に難しく、実施している施設はまだ少ないようです。

●レチノイン酸（トレチノイン）

これまでに述べた薬剤は、角質を表面から溶かしたり剥がしたりして効果を得る薬剤でしたが、レチノイン酸は角質の下にある表皮を作る細胞に作用してどんどん分裂・増殖させ、皮膚の生まれ変わり作用を促進します。外用剤として塗布することで、皮膚の生まれ変わり作用を促したり、メラニンの排出を促したりします。使用開始後、古い皮膚が剥がれ落ちるために一時的にカサカサしたり、弱い炎症が起こったりしますが、慣れるにつれて徐々に炎症等は治まります。上記のピーリング剤治療やハイドロキノンという薬剤と組み合わせることで、特にシミに対する効果が認められていますが、その一方で強い皮膚炎が起こったり、使用中は避妊が必要であったりと、制限もあります。

ピーリング剤の副作用と注意点は？

ピーリング剤の中にはエステティック用として市販されているものもあり、それらは非常に弱い（トラブルが起こりにくい）ものであるにもかかわらず、最近トラブル（あざができた、吹き出物ができた、ヒリヒリして赤くなった、顔が腫れた、肌がただれた、など）が続出しているようです（国民生活センターの統計）。しかし、その原因はすべて術前術後の適切な処置をしていないから起こっていると言っても過言ではありません。ケミカルピーリングは十分な知識を持った医師のもとで受けるようにしましょう。